



Two Heart

vol.
70
2026.01

島根県看護連盟だより



看護の明日は 私たちで創る



投票しなきゃ無言のままだ
ポリナビワークショップ 2025 in 島根



ポリナビ参加者

INDEX

—新春号—

- | | |
|--------------------------|--|
| ● 島根県看護連盟会長挨拶 2 | ● 自民党島根県第一選挙区支部長
たかがい恵美子 挨拶 5 |
| ● 島根県看護協会会长挨拶 2 | ● 要望書提出 5 |
| ● 日本看護連盟会長挨拶 3 | ● 現場からのリポート 6 |
| ● あべ俊子衆議院議員挨拶 3 | ● 青年部活動報告 7~8 |
| ● 石田まさひろ参議院議員挨拶 4 | ● ポリナビワークショップの感想 9 |
| ● 友納りお参議院議員挨拶 4 | ● 研修・行事予定 10 |
| ● 米田ときこ松江市議会議員挨拶 5 | |

R. 8. 1. 1
現在会員数

2,215名

賛助会員数

117名

学生会員数

42名



島根県看護連盟
ホームページ

新年のご挨拶



島根県看護連盟 会長 松尾 英子

新年 あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、新しい年の始まりを健やかに迎えられたことと存じます。平素より、看護連盟の活動に対し、ご理解とご支援を賜り心から感謝申し上げます。

昨年の第27回参議院選挙では、我々の組織力の真価が問われた厳しい選挙でしたが、看護職の代表である石田まさひろ議員を政策決定の場に送り出すことができました。

2040年にむけ、看護を必要とする高齢者数が増加する一方で、就労者が減少し、看護の需要と供給のバランスが崩れることが予想されます。島根県においては先んじた高齢化率であり、看護の質が低下することなく、働き続けられる環境づくりなどの課題解決・改善に、迅速に取り組むことが求められています。

2026年は、「情熱」「行動力」で強調される「丙午」の年です。社会に求められる看護の役割を果たし、人々が安心してすごせることができるよう、看護連盟のスローガン【届けよう看護の声を！私たちの未来へ】をより多くの皆様に宣言し、力強い組織として行動し成長してまいります。そして、看護のよろこびが実感できる現場となりますよう、連盟活動に対し、一層のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、皆さまのご多幸をお祈り申し上げます。

公益社団法人島根県看護協会 会長 池田 康枝



謹んで新年のお慶びを申し上げます。

皆様におかれましては、晴れやかな気持ちで新春を迎えられたことと存じます。日頃より島根県看護協会の活動に温かいご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

少子高齢化が進む中、看護職への期待はますます高まっております。

昨年、日本看護協会から「看護の将来ビジョン2040」が発表されました。看護職が地域包括ケアの中心的な役割を担い、安心して、やりがいを持って働き続けられる環境づくり、すなわち“看護職のウェルビーイング”的実現が大切にされています。私たち島根県看護協会も、看護の専門性を磨きながら、地域の皆さまや多職種の方々に信頼される看護ケアを提供できるよう努めてまいります。

2040年頃を見据えた新たな地域医療構想や医療計画等の推進にあたり、病床のあり方や療養支援、隠岐・中山間地域での人材確保など課題も多くありますが、「いのち・くらし・尊厳をまもり支える看護」の実現に向けて、島根県看護連盟と力を合わせて取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本看護連盟 会長 高原 静子



新年、明けましておめでとうございます。

皆様に心より新春のお慶びを申し上げます。

今年の干支は「丙午」です。この年は、丙（ひのえ）と午（うま）とが組み合わさった特別な年で、60年に一度訪れます。丙午の年は、「情熱」や「挑戦」の年ともいわれています。

会員の皆様のご理解と、ご協力の下、日本看護連盟、都道府県看護連盟が協力し合い、「強い組織」を目指し、情熱をもって挑戦していく年にしたいと思います。若年世代の減少が進む中、日本の社会、経済はこれに対応を迫られています。DXをはじめとした技術革新は人々の生活を一変させる可能性があり、看護もその例外ではありません。後期高齢者の更なる増加、認知症をはじめとする医療・介護の複合的なニーズを有する人々の増加につながり、その治療や療養、そして見取りの場は在宅等、地域を中心としたものへ移行していくでしょう。

日本看護連盟は、日本看護協会、都道府県看護連盟・看護協会、看護職国會議員、看護を支援してくださる議員の皆様と連携し、よりよい医療・福祉の実現に向けて一層の努力を重ねていく所存です。

本年が皆様にとって、健康で実りの多い年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

今年もどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

衆議院議員 あべ 俊子



新年あけましておめでとうございます。今年も新しい年を迎えることができたこと、大変喜ばしく思います。旧年中の多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

あべは昨年10月に文部科学大臣を退任致しました。文部科学大臣在任中は、「誰も取り残さない」教育を掲げ、医療的ケア児対応や不登校の課題、過疎地における学校の存続問題、看護教育のあり方、地域に残る人材育成などに取り組むことができました。これも常日頃、みなさまからのご支援とご指導をいただいたお陰です。

看護職の皆様が直面されている課題は多岐にわたり、その中で培われた経験と知識は、まさに地域社会にとって不可欠な財産であると深く認識しております。

本年も、看護職の皆様が安心して働き続けられる環境づくり、そして専門職としてのさらなる資質向上を支援するため、看護連盟の皆様と連携を密にしながら、より一層努めてまいる所存です。皆様の活動がより円滑に進み、地域医療の発展に繋がるよう、微力ながら尽力してまいります。

皆様にとって、本年が実り多く、健やかな一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



参議院議員 石田 まさひろ

島根県看護連盟の皆様、日頃より多大なるご支援を賜り誠にありがとうございます。日々、患者さんに寄り添い、支え続けてくださる皆様に、心から感謝と敬意を申し上げます。

国会では、参議院自民党・国会対策副委員長、厚生労働委員会理事、予算委員会委員等を務めています。特に国会対策委員会は国会運営の“縁の下の力持ち”として、他政党との交渉、法案の提出時期の調整、自民党内の所属議員に対しての内部調整等を行います。小さなミスで国会が止まりかねない緊張感の高い役割です。気を引き締めて、円滑な国会運営を支えてまいります。

本年は診療報酬改定が予定されています。物価高や人件費上昇に対応した診療報酬の大幅な引き上げはもちろんですが、記録類や手続きの簡素化を重点に据えて活動しています。これは、看護師が本来のケアに集中できる環境を整えるために欠かせない取り組みでもあります。

看護の未来を切り拓くため、皆様が誇りを持って「今日も良い看護ができた」と実感できる環境づくりに向け、2026年も引き続き尽力してまいります。



参議院議員 友納りお

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

この新しい年を、環境大臣政務官兼内閣府大臣政務官（原子力防災）という新たな職務をいただき迎えています。担務は、サーキュラーエコノミー、環境汚染や化学物質などによる健康被害・熱中症対策、東日本大震災からの復興などです。

昨年は、内閣府大臣政務官として、こども家庭庁（母子保健を含む）、男女共同参画・女性活躍、共生・共助、孤独・孤立、国際保健、科学技術、宇宙、AIなど計41の担務に向き合いました。幅広い分野を担当させていただくことで、視野と人脈が大きく広がりました。この政務官の経験は、今後の医療・看護政策の推進に必ず役に立つものと考えています。

看護職の待遇改善、夜勤人員の確保、医療DX等を用いた業務負担の軽減、医療安全の推進、ハラスメントなど、現場の声を大切にしながら、引き続きしっかりと取り組みを進めます。「看護の現場の声を国政に！」初心を忘れず、目の前の課題に1つ1つ丁寧に向き合い、皆さまの期待に応えてまいります。

本年が皆さまにとって健康で幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。



松江市議会議員 米田ときこ

明けましておめでとうございます。昨年は松江市議会議員の改選があり、無事3期目を迎えることが出来ました。平素から皆様の厚いご支援を賜り心より感謝申し上げます。

さて、平成7年5月に新会派「誠政松江」が結成され加入しました。保守系市議12名で構成し、1期4名・2期3名・3期2名・4期以上3名と年齢構成も若くなっています。令和7年から2年間、議会選出の監査委員として、決算監査、定例監査に本議会、委員会と出勤する日が多くなりましたが、心身の健康に留意し役割を果たしてまいりました。

令和7年7月には参議院議員選挙があり、地域を歩き法改正等に向けて様々なご意見をお聞きしました。また、少子高齢化の進行により人材不足や物価高騰により地域でも暮らしに厳しさを増していると痛感しました。今まで以上に皆様の声をお聞きして課題解決に取組んでいます。看護職議員として粘り強く、政策につなげることが皆さまのお役に立てる事と更に胸にしっかりと刻み、国会議員・県会議員との連携を深め、取組んでまいります。

お気軽に電話・メール等いただければ即相談に応じますので、本年もどうぞよろしくお願ひ致します。メール dmole700@yahoo.co.jp

自民党島根県第一選挙区支部長 たかがい 恵美子



島根県看護連盟の皆様に、謹んで新年のお慶びを申し上げます。飛躍する時機到来の感あり、本年も皆様と心をひとつに、国民福祉の向上と後進育成に力を尽くして参ります。

去る10月24日、高市総理は所信表明演説で「健康寿命を延伸するため国内の隅々まで女性医療ネットワークの普及浸透を急ぎ、性差由来の健康課題に対応する“攻めの予防医療”を徹底する」覚悟を示されました。

世界長寿国である日本では、健康的な暮らしを享受できる社会保障制度の整備充実が、これまで以上に重要な政策課題となっています。なかでも生涯を通じた女性の健康課題の改善は、社会活力を形成する観点から世界的な関心事となっています。

また自民党は2014年以降、生涯を通じた女性の健康の包括的支援に関する提言に基づき、着々と政策を実現してきました。どの地域に住んでいようと、幼少期から人生の最終段階に至るまで、ひとり一人が尊厳を守られ自分らしく過ごせるよう、これからも地道な積み重ねを続けたいと思っています。



社会保障の現場が抱える課題を解決するには、地域ごとに異なるケア負担への対応が急務です。島根の現状をしっかり伝え、ともに課題解決を進める仲間の一人としてがんばります。

要望書提出

島根県議会へ要望しました。



9月29日、島根県看護協会と看護連盟が連名で看護関連事業に関する要望を自由民主党ネクスト島根 環境厚生部会、島根県議会議員連盟に対し要望いたしました。

看護関連事業予算の確実な確保についての要望事項

1. 訪問看護サービス体制の強化に向けた支援に関すること
2. 特定行為研修修了者の活用推進に関すること
3. 顧客等による迷惑行為(カスタマーハラスメント)対策の強化に関すること
4. 助産師の確保に関すること
5. 看護基礎教育4年制化への検討の場の設置に関すること

要望書

島根県では、県民が住み慣れた地域で安心して暮らせるように、保健医療計画が進められています。全国的には2040年に高齢者人口がピークを迎えると予測されており、療養の場が医療機関から地域へ広がる中で、訪問看護の役割はますます重要な役割となっています。

しかし、訪問看護での夜間オンコール体制などは負担が大きく、勤務環境の改善が急がれるとともに、訪問看護ステーションは都市部に集中しているため、中山間地域におけるサービス提供の維持に困難が生じております。さらなる財政支援や制度の改善が強く求められます。

特定行為研修修了看護師の活動の場が在宅医療を担う訪問看護に広がることで、看護ケアや点滴、呼吸器管管理を迅速・適切に在宅で行えるようになり、入院を回避しながらその人らしい生活を支えることができます。これは看護師のやりがいを高め離職防止に繋がるとともに、医師の負担軽減にも効果があります。

また、職員の離職に影響するハラスメント対策は、2025年6月に成立した「改正労働施策総合推進法」により事業主にはカスタマーハラスメント対策が義務付けられ、2026年に施行予定です。医療現場においても職員が安心して働く環境を作るための対策の強化が求められます。

全国的に産婦人科医師や助産師が不足する中、県内の周産期医療体制においては、特に県西部では医療体制の維持が難しくなっています。開業医の高齢化や助産師の不足等による開院や分娩のとりやめにより、県内の分娩取り扱い施設は15施設まで減少しています。今後は、産婦人科医師の強力なサポートをするために、助産師外来や院内助産など助産師が主体的に関わわれる体制の構築が急務です。

地域包括ケラシシステムが展開される中、看護師の活動する場が多様化や、求められる役割やスキルが高度化しています。高齢化や人口減少が進み独り暮らしや認知症、経済的困難などの複雑な状況を抱える人が増えている中、看護職には高い専門性が求められます。しかし、現場で必要とされる力と新人看護師の方には乖離があることから、現在の3年間の看護基礎教育では十分な知識や技術、実習時間が確保できていないと考えられます。

つきましては、2026年度島根県の予算編成にあたり、看護関連事業予算の確実な確保についてご尽力を賜りますよう強く要望いたします。

記

- 看護関連事業予算の確実な確保についての要望事項
1. 訪問看護サービス体制の強化に向けた支援に関すること
 2. 特定行為研修修了者の活用推進に関すること
 3. 顧客等による迷惑行為(カスタマーハラスメント)対策の強化に関すること
 4. 助産師の確保に関すること
 5. 看護基礎教育4年制化への検討の場の設置に関すること

令和7年9月29日

公益社団法人島根県看護協会
会長 池田 康枝

島根県看護連盟
会長 松尾 英子



「看護師等の確保を促進するための 措置に関する基本的な指針」改定を受けて ～どの世代の職員にとっても 働きやすい職場環境を目指して～



出雲市立総合医療センター 副院長 永瀬 里佳

令和5年10月26日に「看護師等の確保を促進するための措置に関する基本的な指針」が告示されました。近年、看護師の確保と定着は医療現場における喫緊の課題となっています。

看護師確保において重要なことは就業環境の改善であり、夜勤等の業務負担の軽減や勤務間インターバルの確保、育児・介護などライフステージに応じた勤務環境の整備が必要となります。

若手からベテランまでが安心して働ける環境を整えることは、患者さまに選ばれる病院づくりにも繋がると考えております。

看護師が専門性を発揮できる鍵となるのが、看護補助者との効果的な協働です。

外国人補助者の採用も重要な戦略であり、当院でも令和6年6月より特定技能外国人補助者を採用し、現在8名の職員が勤務しています。日本の文化や言語に適応するためのサポートが必要ですが、早出や遅出、休日勤務や夜勤等、多様なシフトに入り戦力となつていただいている。外国人看護補助者の採用は、人材不足の解消だけでなく、職員の指導スキルの向上や業務改善のきっかけとなり、職場の活性化にも繋がり多くのメリットを実感しております。今後は介護福祉士資格取得支援や試験対策を提供し、定着を図ることも検討しております。

次に、就業継続を難しくする要因の一つである夜勤負担に関しては、急性期病棟での2交代導入にあたり、新しい勤務時間（遅準17:15～2:00）を設定し、交代での仮眠時間の確保を可能としました。また夜間入院の業務改善も行い負担軽減に努めています。

看護職の平均年齢も上昇する中で、個々の職員の健康や家庭状況をふまえ、どの世代の職員にとっても働きやすく、働き続けられる職場には、単に給与や労働条件を改善するだけでなく、働く環境や職場文化を見直し、お互い様と感謝の気持ちがある組織風土も重要な要素としています。

今後もこれらの取り組みを推進することで看護職の魅力を高め、職員の定着に繋げたいと考えております。

日本看護連盟

「現場の声をお聞かせください」常設アンケート

みなさまの「現場の声」をお聞かせください

アンケートはこちら▶▶▶





出雲医療看護専門学校 学園祭参加を経て



青年部支部 幹事 白鹿 さくら

今年度も昨年に引き続き出雲医療看護専門学校の学園祭である結兔祭へ島根看護連盟青年部ブースとして参加させていただきました。我々青年部は青年部組織の強化・拡大に向けた活動、政治意識を高める活動を目的とし日々奮闘しています。政治と言われると、つい難しい・自分には関係ないと思いがちになるかもしれません。ですが、全国を見ても看護師の人数は減少の一途をたどり、また比例して連盟会員も減少を続けている現状です。少しでも早いうちから看護連盟の活動内容、また看護師としての行動力を養うため、近年は看護学生へのアプローチにも注目し行っています。より早いうちから政治意識をしっかりと持ち自律した考えを持つことは未来の看護を担う身として非常に大切なことになると感じています。

この度、学園祭に参加させていただき、日々の学業の大変さはもちろんある中、先生方も含め学校中が1つとなり大きな行事を成功され、私としても学生の皆さんから得られるエネルギーは非常に大きいものとなりました。さて、今回の青年部ブースでは回数をいくつかにわけ看護連盟の紹介やクイズを交えながら働く看護師の現状、実際に働く看護師への質問コーナーなど多岐にわたり交流を行いました。特に看護師の賃金のことについて説明している時の学生の驚いた反応が印象的でした。今ある現状は歴代の国会議員、また先輩看護師の方々が築き上げてくださったものであり、これからの中は時代の変遷とともに私たちで作り上げていかなければなりません。「届けよう看護の声を！私たちの未来へ」このスローガンのもと、どんどん声を上げ、言葉の持つ意味を大きくしていく必要があります。学生の皆さんには楽しい学園祭期間中ではありましたが自分事として真剣に話を聞いてくださり非常にうれしかったです。また、後日の集計で18名学生会員として新たに登録を確認しました。看護学生の皆さん並びに先生方、この度はこのような機会を頂き、感謝申し上げます。皆さんと働く日々を楽しみに今後も日々奮闘していきます。



島根県看護連盟青年部の X (旧Twitter) & インスタグラムの公式アカウント！



青年部から
発信します。
ぜひ、ご覧
ください。

「模擬選挙に立候補しました！」



青年部支部 幹事 圓 岡 祐 菜

今年のポリナビワークショップでは「看護の明日は私たちで創る - 投票しなきゃ無言のままだ -」をテーマに開催しました。昨年に引き続き今年も模擬選挙を行いました。今年の模擬選挙では「みんなで明日の看護のリーダーを決める！？」と題し、4名の立候補者が自分自身がリーダーになった際の公約を掲げて演説を行いました。演説内容は「業務効率化」「働きやすい職場環境の実現」「理不尽な慣習なくす」「協力体制づくり」についてそれぞれが各自施設の課題も踏まえながらの熱い演説となりました。演説後は参加者からの質問や演説者同士の質問が飛び交い盛り上りました。



私は今回の模擬選挙では当選することは叶いませんでした。しかし、立候補者として立たせてもらい演説を行ったことで、看護師がどんな職場だと働き続けたいと思えるかを今まで以上により具体的に考えるきっかけとなり、自分自身が看護の現場を変える一員であるという意識を改めて感じることができました。私は、これまで様々な連盟活動への参加を通して、常に「明



日の看護を変えることは私たちひとりひとりである」ということを聞き続けてきましたが、誰かがやってくれるだろうと思ってはいけない、選挙で投じる一票の重みについてより強く感じることができました。私たちの思いが、今回のワークショップに参加してくださった皆さんに伝わっているといいなと思います。

今後も引き続き、看護連盟の必要性について知ってもらえる機会を沢山つくっていきたいと思います。





島根大学医学部附属病院
落合 勇介

今回のワークショップを通じて、職場の課題解決には制度や政策への参画が重要であると認識しました。グループワークでは、非効率的な業務実態から適切なタスクシフト実現のため、多職種間の業務手順を相互確認する機会の必要性を考えました。これらの根本的な課題には、人員配置基準や診療報酬制度といった国の制度や法律が深く関わっています。そのため、待遇改善や人材確保を実現するためには、連盟がその声を政治に届けるといった役割の大きさを痛感しました。看護師の責務は、人々の生命と健康を守り、尊厳を尊重した看護を提供することにあります。今後は、生涯学習を通じて専門性を高め、他職種と協働して社会に貢献していきます。そして、政治を遠いものとせず、選挙などの機会を通じて政治に関心を持つ姿勢を積極的に周囲の皆さんに伝えていきたいと考えています。



島根県立中央病院
田中 実佳

ポリナビワークショップに参加し、県内の他施設の方々と現場の課題や解決策についてグループワークをしました。前残業をしない方針になりましたが始業時間と入室時間が同じなため前残業をせざるを得ない状況であったり、十分な情報収集や準備ができないまま1日が始まることで心理的安全性が低い状態があるなど様々な意見が出ました。解決策として人員確保や賃金アップは重要項目であり、それらはモチベーションや看護の質の向上に繋がります。看護連盟はこのような現場の声を政治の場に届けるための活動をしていることを知りました。私たちの仕事や生活を豊かにするために政治に関心を持ち投票に行くことの大切さを学ぶことができました。

ポリナビワークショップに参加して感じたこと



雲南省立病院
深津 拓真

私は、4月から働き始めており、今は日々の看護業務に慣れるのに必死です。そんな状況の中で、「職場の課題解決」というテーマの研修会はとても難しく感じました。

グループワークを通して、他の病院で働いておられる看護師さんたちの意見を聞くことができたのは、とても新鮮で良い学びになりました。私たちのグループは「業務の効率化について」話し合いました。各病院の効率化を図る仕組みづくりや新規医療器材の導入の話を聞いて初めはとても感心していましたが、機材をうまく使いこなせなかったり、患者さんとの関わりが薄くなってしまうなど、たくさんの課題点があると驚きました。

看護師の働きやすさを実現するためには、一つの職場だけの話し合いで難しいということがより理解できました。だから、看護連盟などが、私たちのように現場で働いている看護師の負担軽減や働きやすさの実現に向けて取り組んでくださっているんだと研修を通して学びました。私たちは、このような取り組みに支えられているということを知り感謝するとともに、自分も、職場の課題は何かを見つけ解決に向けて動ける人間になりたいと思いました。



益田地域医療センター医師会病院
回復期リハビリテーション病棟
森岡 桜子

ポリナビワークショップに参加し、模擬選挙を通して自分の1票の重みを改めて痛感しました。同時に、医療・看護・介護の現場の声を国政に反映させるためには、中央に看護の代表を送ることがいかに重要であるかを実感しました。このワークショップでは、私たちが専門職として、ただ日々の業務を行うだけでなく、意思表示をおこなうこと、そしてその声が現実社会に反映されるためには、どのような行動が必要かを深く考える貴重な機会となりました。現場の課題を政策として実現させるため、積極的に社会へかかわっていくことが必要であると学びました。今後は、学んだことを職場や地域に広げ、看護の力を政治につなげていきたいです。

Information  to Heart 【研修・行事予定】

月	日	曜日	行事	場所	講師他
3	7	土	一般研修会	パルメイト出雲	衆議院前議員 たかがい恵美子氏
5	23	土	第1回リーダー研修会	パルメイト出雲	未定
6	21	日	島根県看護連盟通常総会	ビッグハート出雲	未定

看護連盟会員 募集中

- ♦看護連盟は看護の現場をよくするために活動しています。
- ♦会員一人ひとりが看護連盟の力となります。
- ♦多くの方の入会をお待ちしています。



正会員・特別会員 年会費 9,000円
(内訳) 日本看護連盟会費 5,000円
島根県看護連盟会費 4,000円
*特別会員:正会員の経験を有し未就業で現在、看護協会員でない方

賛助会員 年会費 1,000円
看護連盟の主旨に賛同していただける人であればどなたでも入会できます

学生会員 会費 無料
就学している看護学生の方

編集後記

躍動の午年を迎える、心もあらたに希望が広がります。力強く、
しなやかに、看護の道を共に歩んでまいりましょう。



■不要な羽毛ふとんはどうしますか？

- 捨てる
 捨てない



とても素晴らしい回答ですね！

羽毛ふとんの多くは一世代で役目を終えて、使用された羽毛は廃棄処分されています。

しかし、羽毛は耐久性に優れており、捨ててしまうのは「もったいない」素材です。

限りある天然素材である羽毛を有効活用している会社があるのを知っていますか？

東洋羽毛では、不要になった羽毛ふとんの引取りを行い、

リサイクル羽毛「LinkDown」として再生しています。

また、羽毛からタンパク質を抽出し、「リンクケラチン*」として工業用途に再利用しています。

*羽毛由来の加水分解ケラチン



取り扱い詳細・
お申込みはこちら！



東洋羽毛中四国販売株式会社 島根営業所

〒690-0055 島根県松江市津田町316-2

0120-996-104

発行：島根県看護連盟

発行責任者：会長 松尾英子

〒690-0049 島根県松江市袖師町7-11 看護研修センター内
TEL(0852) 27-6361 FAX(0852) 27-6417
E-mail:shima-kangoren@vesta.ocn.ne.jp